



令和5年度

瀬谷小だより

9月号



令和5年8月30日

横浜市立瀬谷小学校

学校ホームページ <https://www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/seya/>



努力と夢の実現と

校長 藤田 陽子

夏休みを経て、子どもたちが校門をくぐってきたとたん、学校は明るさや生き生きとした表情を取り戻したように見えます。子どもたちがいてこそ、学校はそのエネルギーを発揮できる場所になることを、改めて感じています。

さて、今年の夏休み期間、私は甲子園球場で行われた全国高校野球選手権大会をテレビで観戦しました。選手の皆さんのプレーや応援、また運営を支える方々の取組に、大きく心を動かされることを実感した機会でもありました。選手の活躍や勝敗の行方に、テレビにくぎ付けになる瞬間が多くありました。

神奈川県代表の慶応義塾高校の各試合後、一部の選手や監督の談話が放映されました。そこで語られた言葉の数々に、私は再度とても強く心を動かされたのです。談話の中で、何回か次の言葉が使われていました。

「笑顔で、楽しんで」

一試合のあの一瞬のために、どれほどの努力と苦しみがあったことかと想像がふくらみました。努力に努力、その上に積み重ねたさらなる努力、そうした時間と労力をもってしても続く苦しみがあったことは想像に難くありません。しかし、その苦しみを「笑顔」「楽しむ」ことへと昇華させることのねらいは何であったのかと考えました。対戦の様子を見続けながら自分なりに考えたことは、「笑顔」や「楽しむ」ことにより、努力の上限を取り除き、どこまでも自分たち自身で、自分たちの力を高めていこうとするチームの目標であり意気込みであったのではないかと感じました。同時に、各県代表校である強豪チームの選手たちにして、いえ、だれもが努力の継続によって力を伸ばし、今の自分をつくりあげているのだ、ということに改めて教えられた思いがしました。努力を継続することは苦しみも伴うけれど、それをどのように受け止めるかは自分次第であり、その前向きなとらえによってこれからの自分をどのようにでもつくる可能性につながる！という希望を抱くことができました。

子どもたちはこの夏休みに何を見、どんなことを考えたのでしょうか。そしてどんな思いを胸に登校しているのでしょうか。子どもたちの表情を見ながら、それぞれの夏休みに思いを馳せています。

夏休み明けは、664人分の「夢」や「なりたい自分」を胸いっぱい抱えての再出発です。子どもたちが「夢」を目指し「なりたい自分」になるために、日々の学習や活動に向けて児童一人ひとりがめあてをもち努力ができること、そしてその努力による自身の力の伸びを感じられること、そのような学校でありたいと願います。学校もその「夢」を目指し、努力を重ねていきます。